OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	臨時的な複合名詞を作る2字漢語形容動詞について
Author(s)	蔡, 珮菁
Citation	阪大日本語研究. 2009, 21, p. 43-60
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/10111
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大日本語研究』21（2009）

臨時的な複合名詞を作る２字漢語形容動詞について

On the Creation of Provisional Adjective Verb-Noun

蔡　珮菁
TSAI Peiching

キーワード：形容動詞、２字漢語、臨時的な複合語、恒常的な複合語、連語、語構成

要旨

２字漢語形容動詞を前要素とする臨時的な複合語の成立条件を考えるために、それらの形容動詞の中で、どのようなものが臨時的な複合語をつくることができるのかを検討した。具体的には、『毎日新聞』全紙面のコーパス６年分を用いて、「（接尾辞「的」をもたない）２字漢語形容動詞と２字漢語の（動）名詞とのくみあわせ」が連語であるか複合語であるか、複合語であるものはそれが恒常的か臨時的かを調べ、それぞれの形容動詞を「非複合型（複合語をつくれないもの）」、「恒常型（恒常的な複合語にしか現れないもの）」、「複合型（恒常的な複合語をもち、臨時的な複合語もつくれるもの）」、「臨時型（恒常的な複合語をもたず、臨時的な複合語をつくれるもの）」に分類して、それぞれの特徴を探った。結果として、「非複合型」には、感情や主観的な評価・判断を表す形容動詞が多く、「複合型」には客観的な属性を表す度合いの強い形容動詞が多いこと、一方、「恒常型」には、「無理」と「可能」の２語しかなく、その恒常的な複合語は、古めかしい複合語か特定の分野の専門語であって、新たな語形成の「型」とはなっていないこと、さらに、「臨時型」は、客観的な属性を表す度合いが強いという点では複合型と共通しつつも、新聞が取り上げる話題で多用されやすい形容動詞であり、新聞テクストの中でのみ臨時に複合語化されるものと考えられること、が明らかになった。この臨時型の形容動詞がつくる複合語は、恒常的な複合語の型に依ることなくつくられるものであり、かつ、連語と交替可能であることから、臨時的な複合語の成立条件を検討する上で、最も適当と考えられる。

１．目的

複合語の中には、形態的には一つの複合語であるものの、本質的には連語と同様に構文活動の場で臨時的につくりだされ、その意味も連語とほぼ等価であり、ほとんどの場合、連語と交替可能なものがある。こうした「臨時的な複合語」が、どのような場合につくられ、また、つくられないかを明らかにするためには、語構成のみならず、連語構成、文構成、文章構成の各レベルにわたる広範な検討が必要である。ただし、そうした検討を一挙に行うことは困難であり、少なくとも今の段階では、対象とする臨時的な複合語のタイプを定

めるとともに、分析のレベルも峻別して、検討を進めていかざるをえない。

このような認識の上に立って、蔡珮菁（2007）では、接尾辞「的」による派生形容動詞（「A的」）と名詞（「B」）との結びつきに注目し、語構成レベルの成立条件、具体的には、要素「A」「B」がその語種・品詞性においてどのようなくみあわせのとき、臨時的な複合語「A的B」になりやすいかを計量的に調査・検討した。その結果、「A的B」が最も多く見られるのは、「A」「B」がともに2字漢語の（非用言的な）体言類のくみあわせの場合であること、また、このくみあわせは、4字漢語複合名詞や和語複合名詞の構成において最も優勢なくみあわせに一致・対応するということが明らかになった。

これに引き続き、筆者は、接尾辞「的」をもたない2字漢語形容動詞に注目し、それが名詞とむすびつくとき、どのような場合に臨時的な複合語をつくり、あるいは、つくらないかを検討したいと考えている。ただし、接尾辞「的」をもつ形容動詞は、「長期的な観点」「長期的観点」、「世界的な規模」「世界的規模」のように、全体として、臨時的な複合語をつくりだす生産的なタイプであるが、接尾辞「的」をもたない形容動詞には、「主要な議題」「主要議題」、「完全な解決」「完全解決」のように、臨時的な複合語をつくることができるものと、「冷静な議論」「×冷静議論」、「真剣な表情」「×真剣表情」のように、臨時的な複合語をつくることができないものとがみとめられる。また、接尾辞「的」をもつ形容動詞は、辞書に登録されるような「恒常的な複合語」を（その前要素となって）つくることがきわめて少ないのに対して、接尾辞「的」をもたない形容動詞には、臨時的な複合語だけではなく、恒常的な複合語をつくるものが少なくない、という違いもある。

こうしたことから、接尾辞「的」をもたない形容動詞について、それを前要素とする臨時的な複合語の成立条件を考えるためには、いきなり連語と比較するのではなく、まずは、それらの形容動詞の中で、どのようなものが（連語だけではなく）複合語をつくることができ、さらに、どのようなものが（恒常的な複合語だけではなく）臨時的な複合語をもつくり得るのかを明らかにした上で、そうした臨時的な複合語をつくり得るものに限って、連語と比較しつつ、その成立条件を明らかにしていくという手順を踏む必要がある。

そこで、本稿では、『毎日新聞』全紙面のコーパス6年分を用いて、接尾辞「的」をもたない2字漢語形容動詞を採集し、それらを、ⅰ）そもそも複合語をつくれないもの、ⅱ）恒常的な複合語にしか現れないもの、ⅲ）臨時的な複合語をつくれるものに分類し、連語との交替が可能であるもの（ⅲ）の類の範囲を明確にすることをめざす。それらを連語と比較し、その選択（成立）条件を検討することは、次の課題としたい。

なお、接尾辞「的」をもたない2字漢語形容動詞が複合語をつくる場合の結合相手は、それが最もむすびつきやすい2字漢語の名詞または動詞（サ変動詞の語幹）に限定する。

２．調査の手順

2. 1. 形容動詞の範囲

対象とする“接尾辞「的」をもたない２字漢語形容動詞”は、あらかじめ、ＮＴＴデータベースシリーズ『日本語の語彙特性』（第７巻頻度①・②）[1)]を利用して、使用例の多い100語に限定した。これは、最もよく使用される上位100語の形容動詞は、その連語、複合語の用例も多様であり、臨時的な複合語の成立可能性をみるのに適していると考えたためである。その手順は、以下のとおり。

①上記データベースから、「形動」という品詞情報にもとづいて、「形容動詞」の見出し語（計4740語）をすべて抜き出す。同データベースの品詞情報は、形態素解析システム「すもも」に依存しているが、国語辞書類の品詞認定を広く採用しているようであり、少なくとも、形容動詞の認定については、「大量」「直接」など語尾が「～の」となるものを認めていることも含めて、問題がないものと判断した。

②それらから、手作業で「２字漢語」の「形容動詞」（計1474語）を抽出する[2)]。

③見出し語の読みのチェックと同語異語判別を行う。このデータベースには、品詞および単語頻度の情報が付加されているため使いやすいという利点があるものの、「コトザマ（異様）」のように単語の読みが不正確な箇所があり、読みのチェックを行う必要がある。また、見出し語については同語異語判別が行われていないため、例えば、「あいまい（頻度5213）」「曖昧（頻度５）」のような同語異表記の組を、同じ見出し語にまとめた上で、「5218」という単語頻度を新たに付す、という作業を行った。

④同語異語判別の結果得られた「２字漢語形容動詞」（計1205語）を度数順に並べ替え、上位100語の形容動詞に絞る。

2. 2. 臨時的な複合語の選定

こうして限定した100語の「２字漢語形容動詞」について、『毎日新聞』６年分（1998～2003年版[3)]）の全紙面から、「２字漢語の名詞または動詞」とむすびついた複合語を採集した。

その上で、採集した複合語から、以下の辞書類に立項されていないことを基準として、臨時的な複合語を抜き出した。

①【新語･現代語辞典】『現代用語の基礎知識2003』（自由国民社）、『imidas 2003 』（集英社）、『経済新語辞典』（1998 ～ 2001年版　日本経済新聞社）
②【国語辞典】『学研国語大辞典　第二版』（学習研究社）、『大辞林　第二版』（三省堂）
③【専門用語辞典】『科学技術と産業用語辞典』（富士書房）、『現代法律百科大辞典』（ぎょうせい）

ただし、次のような複合語は、臨時的と考えられても、対象から除いた。

Ⅰ．特定の形式の記事に使われた複合語
①記事見出し（新聞の見出しは臨時的な複合語を多用する特殊な環境であるため）
・［憂楽帳］巨大遺跡と公共事業
②箇条書き（見出しと似たような性格を有すると考えられるため）
・だが、その米国も、北朝鮮の「衛星打ち上げ支援」構想について（1）ミサイル開発の完全放棄（2）北朝鮮国外で、国際監視体制下で打ち上げる――などの条件が満たされるならば、検討する用意を明らかにしている。
③写真説明
・写真説明　独自入試を行う日比谷高に入る受験生＝東京都千代田区で21日午前8時、松田嘉徳写す
④言葉の説明・注釈（括弧付きのもの）
・労組組織率は22.6％に低下したが、労組のない職場の人々をも代表して、格差をできるだけ是正させ、社会的ミニマム（最低基準）としての労働条件を全体に波及させることが、今、春闘に求められている。
Ⅱ．「文章顕現型の臨時一語」（石井正彦（2007））
同一段落内で、同じ（ＡとＢの）くみあわせの連語「Ａな･のＢ」「ＡにＢする」を臨時的な複合語「ＡＢ」にまとめたもの。文章レベルでの複合語形成と考え、対象から除く。
・臍帯血は、赤ちゃんが生まれた後に捨てられる胎盤と臍（へそ）の緒の中にある血液で、白血病や遺伝性の病気の治療に使われている。白血病の治療としては、現在化学療法のほか、骨髄移植が一般的。骨髄移植は、白血球の型が完全に一致しないとだめなうえ、ドナー（骨髄提供者）の負担も重い。これに比べて、臍帯血移植は提供者の身体的負担もなく、安全で、しかも白血球の型が完全一致でなくてもできるというメリットがある。しかし、まだ多くの国民の理解が得られていない。臍帯血を集めている「臍帯血バンク」の資金も少なく、十分

な臍帯血が確保できていないという現状もある。

Ⅲ．文中で係り受け関係にある複合語

蔡（2007）によれば、構文レベルの条件として規定的な係り受け関係（複合語が後接語に対して規定語になったり、前接する規定語の限定を受けたりする、という前後の修飾関係）は、臨時的な複合語の選択・使用を促すように働く。そこで、語構成レベルの検討に限定する本稿では、こうした規定的な係り受け関係の影響を受けていない臨時的な複合語「ＡＢ」のみを対象とする。

こうして、上記１～３のものを除外した結果、100語の形容動詞による臨時的な複合語「ＡＢ」として、異なり2444種（延べ23451例）を得た。

2. 3. 恒常的な複合語の収集

同じ100語の形容動詞について、上記の辞書類に立項されている（それらを前要素とする）複合語を抜き出し、それぞれの形容動詞の「恒常的な複合語」とした。

３．分析

3. 1. 臨時／恒常からみた４分類

以上の手順により、“接尾辞「的」をもたない２字漢語形容動詞”100語について、それぞれがつくる臨時的な複合語と、同じくそれぞれを含む恒常的な複合語とを得た。以下、両者の用例数にもとづいて、各形容動詞を、１）そもそも複合語をつくれないもの、２）恒常的な複合語にしか現れないもの、３）臨時的な複合語をつくれるものに分類する。ただし、臨時的な複合語をつくるものは、さらに、恒常的な複合語を多くもつものと、もたないものとに分けられる。結果として、以下のような４分類になる。

Ａ．複合語をつくれないもの・・・「非複合型」
Ｂ．恒常的な複合語にしか現れないもの・・・「恒常型」
Ｃ．恒常的な複合語をもち、臨時的な複合語をつくれるもの・・・「複合型」
Ｄ．恒常的な複合語をもたず、臨時的な複合語をつくれるもの・・・「臨時型」

以下、各類について、詳述する。

3. 2. 非複合型

このタイプは、恒常的な複合語もなく、臨時的な複合語も作らない形容動詞で、以下の33語[4)]は、どちらも1例もない。

表1　非複合型（0−0）

形容動詞	臨時的な複合語	恒常的な複合語						
明確	0	0	正確	0	0	恰好	0	0
大切	0	0	当然	0	0	懸命	0	0
大事	0	0	容易	0	0	意外	0	0
本当	0	0	多様	0	0	肝心	0	0
確実	0	0	熱心	0	0	安易	0	0
大変	0	0	綺麗	0	0	必至	0	0
微妙	0	0	早急	0	0	一杯	0	0
適切	0	0	膨大	0	0	独特	0	0
順調	0	0	冷静	0	0	多彩	0	0
急激	0	0	立派	0	0	密接	0	0
強力	0	0	着実	0	0	必死	0	0

また、以下の4語は、恒常的な複合語が1例あるのみで、臨時的な複合語の例はない（いずれも異なり）。

表2　非複合型（0−1）

形容動詞	臨時的な複合語	恒常的な複合語
十分	0	1
複雑	0	1
活発	0	1
真剣	0	1

西尾寅弥（1976）は、「複合語が新たに形成されるのは、既存の複合語の実例が作り出している「型」をモデルとして類推的創造（analogical creation）が行われるためである。したがって、ある「型」が有力であるかどうか、生産的な語形成様式であるかどうかは、その型に属する実例数の大小によるところが大きいであろう」と述べ、新たな複合語は既存の複合語で優勢な語形成の「型」をモデルにつくられる可能性を示している。これに従

えば、この非複合型は、恒常的な複合語が（ほとんど）ないために、優勢な語形成の「型」もなく、したがって、それをモデルに臨時的な複合語が作り出せない形容動詞、ということになる。このタイプの形容動詞には、

明確、大切、大事、確実、正確、熱心、冷静、着実、懸命、意外、肝心、必死、真剣

のように、『分類語彙表』の「3.30　心」に所属するものが多い。このうち、

熱心、冷静、懸命、必死、真剣

などは、いわゆる感情・感覚形容詞に類するものであり、他の形容動詞も、主観的な評価や判断を表している。これらは、話者の主観を表すという点で共通している。そのほか、

本当、大変、適切、順調、当然、容易、綺麗、立派、恰好、安易、必至

なども、主観的な面を有しているように思われる。

これらと名詞とのくみあわせは、下例のように、連語になる。

1）パネルディスカッションでは「庶民の台所」としてにぎわっていた小売市場をどのようにして活性化させるかについて熱心な討議が交わされ、約200人が聴き入った。
2）社会システムの変化を踏まえ、冷静な分析に基づく対策を立てることが急務だと考えます。
3）自治会長の谷中さんら８人が運び込まれた和歌山市岩橋、誠佑記念病院（上野雄二院長）は25日夜から徹夜で懸命な治療が続けられた。
4）英語帝国主義はますます強大化している。それでもこの圧力に各国が必死の抵抗をすることは、自国文化を守るために必要なのである。
5）横道にもそれる。でも、とがめもせず、丁寧に応じながら教師が黒板に書き始めると、教室はさっと静まり、生徒は真剣な表情でプリントに写していく。
6）だが、景気低迷や地価下落が続くため、下期の不良債権処理額は上期を上回るのは確実な情勢にある。
7）与党離脱方針を固めた社民党だが、いつ、何を理由に離脱するのか、内閣不信任案が提出されたら賛成するのかなど、肝心な部分は不透明なままだ。

この非複合型には、恒常的な複合語はないか１例で、臨時的な複合語をわずかにつくる、次のような形容動詞も含めてよいように思われる（いずれも異なり）。

表３　非複合型（わずか－0 ／ 1）

形容動詞	臨時的な複合語	恒常的な複合語						
曖昧	4	1	健康	2	0	率直	1	0
元気	4	0	新鮮	2	0	鮮明	1	0
大胆	4	0	深刻	1	1	豊富	1	0
心配	3	0	有利	1	0	極端	1	0
異例	2	0	残念	1	0	遺憾	1	0
貴重	2	0	困難	1	0			

これらにも、「残念、率直、遺憾、心配、大胆、元気」などをはじめとして、感情や主観的な評価・判断を表すものが多い。

なお、これらのつくる臨時的な複合語には、以下のように、括弧でくくられるなどして、異例・特殊な造語であることが明示されているものも多い。これらが、本来、複合語をつくらない非複合型の形容動詞であることを示唆するものであろう。

8）こうした軍事力行使について、国際社会はその正当性を問うケースもあり、グレナダとパナマ侵攻では国連総会が「遺憾決議」を出している。

9）そしてもう一つ私を驚かせたのは、すそ模様の中に「残念模様」と呼びならわされたものが存在したことであった。

10）新国立劇場（新国）は、上演作品が不評だったり問題山積で“深刻劇場”ともやゆされてきた。しかしそんなことはない。

11）しかし、首相は全線開通の是非も含め「民営化」以外に具体的な中身を語ってこなかっただけに、「あいまい決着」を予想する見方も根強い。

12）さらに、台湾当局がＴＭＤ参加への態度をはっきりさせず、「あいまい戦略」によって政治カードとして利用しようとしていることにもいら立ちを強めている。

13）３者が足りない部分を補い合いながら、国民の支持を得て「元気農業」を目指す場であってほしい。

14）人間、誰しも長生きしたいと願うが、肝心なのは寝たきりではなく、心身とも元気はつらつと長生きすることではないだろうか。寿命でも、大事なのは“元気寿命”である。

以上のように、非複合型の形容動詞には、感情・感覚形容詞に類するものや主観的な評価・判断などを表すものが多いが、これは、形容詞の語形成と共通する現象である。仁田

義雄（1998）は、形容詞を「属性」「評価・判断」「感情・感覚」と分類した上で、「高山」「細道」「暗闇」などの属性形容詞の例を取り上げ、「この種の複合名詞の形成には、ク活用という形態的なことが関係しているだろうが、『＊辛事』のようなものが存在しないことから（『凄腕』はあるが）、感情・感覚形容詞に対する属性形容詞の特性と考える。一語たる名詞の内部構成要素として、その語幹が使用されることから、属性形容詞の名詞との関連性が指摘できよう。」と説いている。また、秋元美晴（1984）の調査で、「形容詞語幹＋形容詞」という複合形容詞の構成において、前項Ｘの要素である形容詞語幹はすべてク活用形容詞の語幹であるという結果が得られたことからも、属性形容詞の複合語とのかかわりがうかがえる[5)]。

3. 3. 複合型

このタイプは、非複合型とは逆に、恒常的な複合語が多くあり、臨時的な複合語も多くつくる形容動詞である。西尾（1976）に従えば、恒常的な複合語（のあるもの）が優勢な語形成の「型」をなし、それをモデルに臨時的な複合語を数多くつくりだすことのできる形容動詞、ということになる。以下の９語は、恒常的な複合語が（異なりで）10語以上あり、かつ、臨時的な複合語を多数つくっていることから、このタイプの代表的な形容動詞とみてよい。

表４　複合型（多ー10 以上）

形容動詞	臨時的な複合語	恒常的な複合語
特別	239	31
完全	217	16
直接	113	25
特定	86	10
自然	81	12
自由	78	12
特殊	76	12
異常	66	13
普通	41	13

なお、以下の２語は、複合語の数が少ないため、今のところ、複合型とはせず、分類を保留しておく。

表 5

形容動詞	臨時的な複合語	恒常的な複合語
反対	4	5
公正	3	2

先の 9 語に、感情・感覚形容詞に類するものはなく、また、主観的な評価や判断を表すというより、客観的な属性を表す度合いが強いものが集まっているように思われる。以下、臨時的な複合語の数が100種以上の「特別、完全、直接」について、その用例の一部を挙げる。

■特別

15）今回の入国手続きは、法相がいったん入国を拒否し、同選手からの異議申し立てに基づき特別許可を与える形とし、入国に際して本人から日本の法令を順守する旨の確約書を提出させる。

16）従来は特別注文で発注数量に制限があったが、標準品シリーズ化したことで、工期の短い中小規模の建物でも使いやすくなった。

17）松坂投手に限らずスポーツや芸能関係者の中には、特別意識でふるまう若者に少なからず接するが、増長感覚に警鐘を鳴らしてほしいものだ。

18）1995年、兵役に招集され、内務省部隊に派遣された。ロシア南部のクラスノダール州で特別訓練を受けた後、96年からチェチェン内戦に参加。

■完全

19）焦点の消費税問題は継続協議する事実上の棚上げを図ったほか、他の政策に関しても完全一致はなく、「初めに連立ありき」の印象が強い連立劇だった。

20）決戦を控えた日本チームは、午前中を完全休養に充てた。

21）近親者が老衰のため病院で亡くなった。個室とはいえ完全看護が建前なので、仮眠するスペースも設備もなく、家族が昼間だけ付き添っていた。

22）ベビーフードには、赤ちゃんの栄養を考えたあらゆる物が入っており、完全食品だという。

■直接

23）この日は直接交渉は行われず、米国側がイスラエル、パレスチナ双方と個別協議を重ねた。

24）発表によると直接支援が可能になるのは、1995年 9 月以降、対北朝鮮支援に関与

してきた団体で、支援実績や物資配給の透明性を確保できる能力などを考慮して許可が与えられる。

25）インドとパキスタンが事件発生をめぐって非難合戦を展開、乗っ取り機を抱えたアフガニスタンが直接関与を避けて同機に国外退去を求めるなど、３国の思惑が複雑に交錯。

26）東尾監督が「夏の甲子園大会を見て、取りたい気持ちが急に強くなった」と“直接出馬”も辞さないほどホレ込んでいるほか、堤オーナーも獲得に積極的だと言われる。

3. 4. 恒常型

このタイプは、恒常的な複合語があるものの、臨時的な複合語をつくらない形容動詞である。恒常的な複合語がすでに生産力を失っていて、新たな語形成の「型」とならず、したがって、それをモデルに臨時的な複合語をつくりだすことのできない形容動詞、ということになる。ただし､このタイプの形容動詞は少なく､「無理」と「可能」の２語しかない。

表６　恒常型（少ー多）

形容動詞	臨時的な複合語	恒常的な複合語
無理	0	4
可能	0	3

実際、これらを前要素とする恒常的な複合語は、

無理往生、無理算段、無理心中、無理難題
可能世界、可能動詞、可能命題

のように、古めかしい複合語か、特定の分野の専門語であって、新聞における臨時的な複合語の型にはなりにくいように思われる。したがって、これらと名詞とのむすびつきは、複合語にはならず、連語となる。

27）ＪＡＳＲＡＣ側は「一気に上げるのではなく、段階的に目標の使用料率５％へ到達したい。無理な要求をしているつもりはない」と話す。

28）無理な練習を強いられていないか、教師は生徒それぞれに合った指導をしている

か、親が注意する必要がある」と話している。

29）その上で、米国は可能な範囲で「テロとの戦い」に参加するよう各国に要請し続けていると表明した。

30）今後は国連の権威回復をめざして、人道支援や復興協力など可能な作業を詰めたい。

3. 5. 臨時型

このタイプは、恒常的な複合語がないか少ないのに、臨時的な複合語を数多くつくる形容動詞である。恒常的な複合語がない（少ない）以上、優勢な語形成の「型」もないはずであるが、にもかかわらず、臨時的な複合語を数多くつくりだしているわけで、西尾（1976）の図式には収まらないタイプといえる。恒常的な複合語が何語以下なら「少なく」、臨時的な複合語が何語以上なら「多い」とするか、明確な線引きは難しいが、一応、以下の28語を、このタイプの形容動詞とみなしておく。

表７　臨時型（多ー少）

形容動詞	臨時的な複合語	恒常的な複合語						
正式	185	1	必要	33	2	急速	11	0
大量	175	1	重大	32	1	多額	11	0
主要	145	4	安全	27	2	慎重	10	0
独自	109	0	巨額	27	0	好調	8	0
重要	77	2	正常	26	3	最悪	8	0
最高	76	4	高度	16	2	詳細	8	0
有力	76	0	健全	16	1	簡単	7	0
有名	39	1	柔軟	15	1	不明	7	0
最低	34	2	得意	11	1			
危険	33	4	同様	11	0			

以下の５語は、恒常的な複合語が５語以上あり、複合型とも考えられるから、ここでは、分類を保留しておく。

表８

形容動詞	臨時的な複合語	恒常的な複合語
共通	59	7
不当	38	5
単純	21	7
巨大	18	5
有効	17	8

さて、このタイプの形容動詞は、「得意」「慎重」を除けば、客観的な属性を表す度合いの強いものがほとんどで、その点では、複合型と変わらない。しかし、だとすれば、これらの形容動詞には、２つの疑問が生じる。

［1］これらの形容動詞は、客観的な属性を表す度合いが強いのに、なぜ、複合型と違って、恒常的な複合語をつくっていないのか。
［2］これらの形容動詞は、恒常的な複合語を語形成のモデルとすることができないのに、なぜ、臨時的な複合語を数多くつくることができるのか。

本稿では、これらの疑問について、いま、明確な解答を提示することができないが、一つの可能性として、臨時型の形容動詞は、（他の文章・談話ではなく）新聞というテクストで特に注目されるような属性を表しており、そのために、（一般に広く使われる）恒常的な複合語はつくらないのに、新聞特有の臨時的な複合語を盛んにつくるのではないか、という仮説を立てることができるように思う。実際、以下の用例が示すように、これら臨時型の形容動詞がつくる複合語は、政治、犯罪・事件、スポーツなど、新聞が主に取り上げる話題（記事）において多用される傾向が見受けられる。

＜政治的な話題＞
31）一方、ブッシュ氏に支持率調査で引き離されている民主党の本命候補、ゴア副大統領（51）は16日、地元テネシー州で正式出馬を表明後、アイオワ州で本格遊説する。
32）そして登場した「ブッシュのアメリカ」が、このまま独自路線で突っ走れば、21世紀の世界をひっかき回すかもしれない。
33）しかし、主要政策では依然として保守色を堅持、「目的を持った減税」の必要性を唱え、銃規制に反対する立場だ。

34）外交に関する会議は重要事項が多いため、憲法で「ＥＵ外相」を常設し、ＥＵ外相が半永久的に議長を務めることも検討されている。
35）毛氏もトウ氏も死ぬまで最高権力を手放さなかった。

＜犯罪・事件＞
36）吐くほど酔った人間が、部屋と中庭を往復しながら大量殺人を犯すことが可能か疑問が残る。
37）「個人消費」名目で通関手続きがとられた後、業者らの手で全国に運ばれ、販売免許を持たない韓国系商店などで違法販売されている。税関当局も大量流入を認めているものの、「商業目的と断定できない」として、防止策は取れていない。
38）刑法犯全体の発生件数が上半期としては８年ぶりに前年より若干減り、検挙率も21.7％とわずかに持ち直したが、重要犯罪に限った検挙率は初めて５割を切って48.6％に落ちた。
39）大蔵省の銀行検査をめぐり収賄容疑で逮捕された前金融検査部金融証券検査官室長、宮川宏一（53）と前同部管理課長補佐、谷内敏美（49）の両容疑者が、逮捕容疑となった都市銀行４行以外の銀行数行からも多額接待を受けていた疑惑で、東京地検特捜部は16日午後、２人を新たな収賄容疑で本格的な取り調べを始める模様だ。
40）政府は15日の閣議で、重大事件で心神喪失などを理由に不起訴や無罪になった場合の処遇を定めた「心神喪失者医療観察法案」を決定した。

＜スポーツ＞
41）新体操のイオンカップ世界クラブ選手権最終日は15日、東京体育館で個人総合とクラブ対抗の決勝などが行われ、個人総合はドーピング（禁止薬物使用）疑惑から復帰したばかりのアリーナ・カバエワ（ロシア）が４種目中３種目で最高得点をマークし、合計111.798点で２年連続４度目の栄冠に輝いた。
42）豊富な資金を元に有力選手をかき集めるヤンキースが昨年、支払った選手の年俸総額は約１億1000万ドル（約143億円）。
43）イチローは二回にも先頭で安打を放つなど、今季３度目の１試合４安打で大量得点に貢献した。それだけではない。
44）カネをつぎ込んで外国人や有名選手を集め、それをチーム強化と呼んできたのが“サッカーバブル”の発想だ。

林（1982）や石井（2007）がいうように、新聞は臨時的な複合語を積極的にうみだす環境であるが、そうした環境が、すでに生産力をもっている複合型の形容動詞だけでなく、これら臨時型の形容動詞にも、臨時的な複合語を盛んにつくる機能を与えているのではないか。

４．まとめと今後の課題

以上、本稿では、（接尾辞「的」をもたない）２字漢語形容動詞について、どのようなものが臨時的な複合語をつくることができるのかを検討した。すなわち、『毎日新聞』全紙面のコーパス６年分を用いて、「２字漢語形容動詞と２字漢語の（動）名詞とのくみあわせ」が連語であるか複合語であるか、複合語であるものはそれが恒常的か臨時的かを調べ、それぞれの形容動詞を「非複合型（複合語をつくれないもの）」、「恒常型（恒常的な複合語にしか現れないもの）」、「複合型（恒常的な複合語をもち、臨時的な複合語もつくれるもの）」、「臨時型（恒常的な複合語をもたず、臨時的な複合語をつくれるもの）」に分類して、それぞれの特徴を、以下のように、見出した。

まず、「非複合型」の形容動詞は、恒常的な複合語がないために、優勢な語形成の「型」もなく、それをモデルに臨時的な複合語が作り出せない一群であり、その多くは『分類語彙表』の「3.30　心」に所属し、全体的に感情や主観的な評価・判断を表す点で共通している。なお、このタイプのものには、本来、複合語をつくらない形容動詞でありながら、括弧でくくられるなどして、臨時的な複合語をわずかにつくるという異例・特殊な造語が見られる。

次に、「複合型」の形容動詞は、恒常的な複合語が優勢な語形成の「型」をなし、それをモデルに臨時的な複合語を数多くつくりだすことのできるタイプであり、感情・感覚形容詞に類するものはなく、主観的な評価や判断を表すというより、客観的な属性を表す度合いが強いものが集まっている。

一方、「恒常型」に属する形容動詞は、「無理」と「可能」の２語しかなく、その恒常的な複合語を検討してみると、古めかしい複合語か、特定の分野の専門語であって、新たな語形成の「型」にはなりにくいものである。

さらに、「臨時型」の形容動詞に注目してみると、客観的な属性を表す度合いの強いものが多いという点では複合型と共通しつつも、例えば「正式、大量、主要、独自、重要、最高、有力」のように、（他の文章・談話ではなく）新聞というテクストで特に注目されるような属性を表している点で特徴的であり、臨時的な複合語を積極的にうみだす新聞と

いう環境の中で、（新聞特有の）臨時的な複合語を盛んにつくる機能を獲得しているのではないか、と推測できる。

このように、本稿の結論をもとに、ようやく連語と臨時的な複合語とで自由変異的な関係をもち得る「２字漢語形容動詞」、すなわち、「臨時型」の形容動詞を得ることができた。この臨時型の形容動詞がつくる複合語は、恒常的な複合語の型に依ることなくつくられるものであり、かつ、連語と交替可能であることから、臨時的な複合語の成立条件を検討する上で、最も適当と考えられる。今後、この臨時型の形容動詞を対象として、それらが、どのような場合に連語をつくり、また、どのような場合に複合語をつくるのかを比較することによって、これら２字漢語形容動詞を前要素とする臨時的な複合語の成立条件を究明していきたい[6)]。

注

1）NTTデータベースシリーズ『日本語の語彙特性』第７巻は、単語の頻度を収録した単語頻度データベースと、文字の頻度を収録した文字頻度データベースで構成されている。本稿の「形容動詞使用頻度順」の判断基準となった「単語頻度データベース」は、「1985年から1998年までの14年間に発行された朝日新聞の紙面に基づいて朝日新聞社が作成した記事データを、高速日本語形態素解析システム「すもも」（鷲坂、山崎、広津、尾内、1997）を使用して形態素解析し、その結果形態素として得られた単語を計数することによって」構築されたものである（NTTデータベースシリーズ『日本語の語彙特性』第７巻　まえがき　p. ⅲ）。

ただし、1）東京管内地方版の全記事、2）投書欄や連載小説等、著作権が朝日新聞社に属さない記事、3）1987年以前の学芸面の記事、4）1992年以前の日曜版およびスポーツ面の記事、5）テレビ・ラジオ番組欄、株式欄、広告等は含まれていない。

2）この段階では、当て字「馬鹿（バカ）、阿呆・阿房（アホ）」、また、「ご機嫌、ご苦労」のようなものを取り除いた。

3）本稿で用いた『ＣＤ－毎日新聞データ集』は、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座が毎日新聞社と交わした利用許諾契約および覚書にもとづいて使用したものである。

4）表１の33語は、「２.１．形容動詞の範囲　④」で得られた上位100語の使用度数の高いものから順に並べている。すなわち、先頭ほどＮＴＴデータベースにおける使用度数が多い。

5）形容詞に関して、これまで意味の側面から下位分類した先行研究では、その種類は２分類から６分類までに渡っており、以下のような研究が挙げられる。すなわち、①三田村紀子（1966）「相的な形容詞　もの」「相的な形容詞　こと」「相的な形容詞　ひと」「用的な形容詞　もの」「用的な形容詞　こと」「用的な形容詞　ひと」、②西尾寅弥（1972）の「属性」「感情」、③吉田金彦（1977）「属性形容詞」「感情形容詞」「価値形容詞」「感覚形容詞」「程度形容詞」「否定形容詞」、④寺村秀夫（1982）の「感情表現」「感情性状規定表現」「性状規定表現」、⑤川端善明（1983）「情態性形容詞」「中間形式」「情意性形容詞」、⑥阪倉篤義（1985）「情態形容詞」「感覚形容詞」「程度形容詞」「評価形容詞」「感情形容詞」、⑦山口佳紀（1985）の「性状」「評価」「感覚」「感情」、⑧細川英雄（1989）の「Ａ」「Ｂ（コト、コト・モノ）」「Ｂ（モノ）」「Ｃ」、⑨荒正子（1989）や樋口文彦（1996）の「状態形容詞」「質形容詞」、⑩仁田義雄（1998）の「属

性」「評価･判断」「感情･感覚」、⑪八亀裕美（2001）の「Ａグループ」「Ｂグループ」「Ｃグループ」「Ｄグループ」「Ｅグループ」などである。このような諸説の分類の主軸の多くは「属性」「感情・感覚」からなっており、中でも対象内容（もの・こと・ひと／カラダ・コト・モノ）を交差させた三田村（1966）と細川（1989）のような研究が該当する。吉田氏、仁田氏、山口氏、川端氏などのように「程度」「評価」という観点を付け加えた分類もある。また、荒氏、樋口氏、八亀氏の研究は、時間的限定性を分類基準としている。

上記の諸先行研究は大きな示唆を与えてくれるが、本稿は主に仁田氏の分類を参考とし、形容動詞を「属性」「評価･判断」「感情･感覚形容動詞」とに大別する。このような分類は､仁田（1998）と秋元（1984）の結論の再検証にもなるものである。

6）臨時的な複合語の成立可能性を論じる際の観点として、それを組み立てている個々の要素（前要素と後要素）に求めることができる。すなわち、「どのようなタイプの名詞ないし動詞が臨時的な複合語を作るのか（後要素の性質によるもの)」、「どのような形容動詞がどのような後要素と結びつくと、臨時的な複合語を作るのか（前要素と後要素とのむすびつきの問題)」などの観点が欠かせない。

なお、これらの観点と関わる問題点として、表9に示したような特徴が挙げられる。まず､「AにBする」という表現が成立する､かつ臨時的な複合語が50種以上の形容動詞に限ってみると､「特別」「完全」「正式」「大量」「直接」「自然」「不当」による臨時的な複合語の大部分が､「Ａ･ＶＮ」になっているのに対して､「共通」は､「Ｎ」という文法的性格の後要素と結びつきやすい。一方､「独自」「自由」「異常」などの場合、「ＡＮ」「Ａ・ＶＮ」両方の使用が見られる。

表９「ＡＮ」と「Ａ･ＶＮ」

表記		特別	完全	正式	大量	直接	自然	独自	自由	異常	共通	普通
複合語	ＡＮ	90	35	32	12	21	17	48	30	34	45	30
	Ａ･ＶＮ	149	182	153	163	92	64	61	48	32	14	11

参考文献

秋元美晴（1984）「現代形容詞の語構成の特質　その一」『緑岡詞林』第8号
秋元美晴（1996）「形容詞の装定用法と述定用法」『林巨樹先生古稀記念　甲戌論集』武蔵野書院
荒　正子（1989）「形容詞の意味的なタイプ」『ことばの科学』3　むぎ書房
石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
川端善明（1983）「文の構造と種類―形容詞文」『日本語学』2－5
国立国語研究所（1964）『分類語彙表』秀英出版
蔡　珮菁（2007）「連語と交替可能な臨時的複合語の語構成―新聞社説における『Ａ的なＢ』と『Ａ的Ｂ』の場合―」『日本語の研究』3－3
阪倉篤義（1985）「歌ことばの一面」『文学・語学』105　全国大学国語国文学会
竝木崇康（1988a）「複合語の日英対照―複合名詞・複合形容詞」『日本語学』7－5
竝木崇康（1988b）「『可能』という語で終わる日本語の複合語―接尾辞-ableで終わる英語の派生語との対照―」『茨城大学教育学部紀要（人文・社会科学・芸術)』37号

寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
西尾寅弥（1972）『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
西尾寅弥（1976）「造語法と略語法」『日本語講座第四巻　日本語の語彙と表現』大修館書店
仁田義雄（1998）「日本語文法における形容詞」『月刊言語』27－3
林　四郎（1982）「臨時一語の構造」『国語学』131
樋口文彦（1996）「形容詞の分類―状態形容詞と質形容詞」『ことばの科学』7　むぎ書房
細川英雄（1989）「現代日本語の形容詞分類について」『国語学』158
三田村紀子（1966）「形容詞の意味分類」『研究年報』10　奈良女子大学文学会
宮島達夫（1983）「単語の本質と現象」『教育国語』74
八亀裕美（2001）「現代日本語の形容詞述語文」『阪大日本語研究』別冊1
吉田金彦（1977）『国語意味史序説』明治書院
山口佳紀（1985）『古代日本語文法の成立の研究』有精堂

（博士後期課程学生）
（2008年８月22日原稿受付）
（2008年10月５日修正版受付）
（2008年10月30日再修正版受付）
（2008年11月17日掲載決定）